



遠藤さんの小松菜



放し飼いの養鶏と農業の組み合わせで小規模循環型農業を行いながら、発酵学も追求しています。



防虫ネットは虫だけでなく、秋にやってくる台風の被害を減らすためでもあります。



素直に伸びやかに育った小松菜は、見た目もきれいでシャキッとて美味しいですよ。

★時間をかけて仕上げた畑で素直に育てる
ここ数年、秋は天候不順続きですが、今年は夏の猛暑、そして台風続きと散々な天気が続いています。しかし葉物は大きな被害も無く、10月から予定通り出荷開始です。

今年から小松菜出荷の大黒柱になった遠藤さんは、おかげさま農場の中では若手です。とはいえ、若い頃から農業を志し、まだ40代ですが、20年以上農業に携わってきました。養鶏と野菜作りを一緒に行う循環型の自然に即した農業を行ってきたので、外部から資材を持ち込むことはあまり無く、地元の林の落ち葉、ワラ、もみ殻などを放し飼いの鶏小屋に敷き詰めることで、自然に鶏糞が混じった堆肥が出来上がります。この自家製堆肥と米糠に乳酸菌や酵母菌を混ぜて熟成させたボカシ肥料を野菜の収穫後に撒き、牧草を蒔きます。そして夏に育った牧草を畑にすき込み、ビニールで畑を覆うことで、夏の太陽熱で雑草の種や病原菌をリセットしながら牧草を腐熟化し、それから葉物の種を蒔く、というサイクルが型にはまってきたようです。3年前からは肥料を買ってきて使う事は無くなったと言います。

「昔は肥料も多少使って年に2回作っていたんだけど、今は年に1作だけにしたんだ。その方が管理が楽だし、畑にも堆肥やボカシ肥料がよく馴染んで、野菜にも優しいと思うよ」
無理をせず時間をかけて仕上げた畑で伸び伸びと育った遠藤さんの小松菜。姿、そしてその味わいを存分に楽しんで下さいね。

おかげさま農場は「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎小かぶは13日(土)から、大根は中旬から、キャベツは20日(土)頃頃から出荷開始予定です。